

2008年毎日農業記録賞・一般部門

市丸初美さん 最優秀賞に輝く

毎日新聞社が主催し、農林水産省などが後援する『毎日農業記録賞』の一般部門で、波多津町の市丸初美さんが最優秀賞に選ばれ、12月12日、市役所を訪れて塚部市長に受賞を報告しました。

最優秀賞に輝いた市丸さんの作品は『脱サラ百姓奮闘記』夫婦それぞれが社長とし

て」と題し、夫の道雄さんの脱サラを機に、自分も農業を職業に選び、プロイラーの飼育などを通して農業の楽しさ、難しさ、将来への希望が綴られています。

受賞にあたり「生産から販売まで、家族総出で取り組んできました。これからも助け合いながら頑張っていきたいと思います」と語る市丸さんに、塚部市長が「市丸さんの頑張りには、同じ農業者やその後継者の刺激になりました」と受賞をたたえました。



表彰の楯の前に、塚部市長（前列左）ら関係者と記念撮影する市丸初美さん（前列右）

★毎日農業記録賞

農業を取り巻く厳しい環境の中で、農に携わる人々が活力を得るよう励まし、明日への希望を抱いてもらうよう、1973年に創設されました。農業、環境、食に関する体験や思いを表し、農業者だけでなく消費者も自由に応募できます。

全国で募集され、一般部門、高校生部門に分かれています。今年度は市丸さんをはじめ6人が一般部門で最優秀賞を受賞しました。昨年度は、一般部門で東山代町の川久保國緒さん、高校生部門で南波多町の小旗香海さんが、それぞれ優良賞に輝きました。



1月3日、初詣ででにぎわう伊万里神社に行ってきました

中国大連市公務研修生 スーさんリポート②

日本にきて早や3か月が経ちました。市役所での研修のほか、県内のいろいろなところを見学させてもらっています。こうした研修を通じて、市役所の各部署の仕組みと事務内容などが大まかにわかりましたし、県内各地の民俗、伝説なども知ることができました。

先日、佐賀市に研修に行きました。すごく有意義な一日を過ごすことができました。まず佐賀市出身の日本の偉人である大隈重信氏の旧居を見学してきました。この人は日本の歴史上、特

に教育の分野では非常に重要な役割を果たされたことがわかりました。

次に、県庁の国際課と佐賀県国際交流協会を訪問し、佐賀県の国際交流の現状、組織、取り組み、未来、そして中日交流などを詳しく教えてもらいました。

また、徐福長寿館を見学することもできました。徐福氏が何の理由で日本にきたのか、そしてこの人の日本での足跡がどこに至っているのか、日本にどんな技術を持ってきたのか、いろいろなことを学ぶことができました。中国と日本の交流が徐福氏の時代、つまり中国の始皇帝の時代から始まったことが初めてわかりました。

餅つき・おせち・初詣で 日本の年末年始を初体験

一方、生活の面では、いろいろな人たちが日本の伝統・文化に触れる機会を与えてくれました。まず年末

は、市職員のお宅で、ご家族と一緒に餅つきをさせてもらいました。お正月は、伊万里神社に初詣で行きました。また、市職員のお宅に招かれて、おせちとか、雑煮などおいしい正月料理をたくさん食べさせてもらいました。『鬼火焚き』という日本の伝統行事も見学することができました。このように、初めての日本の年末年始をいろいろと楽しむことができ、本当にいい思い出ができました。

他方、行く先々で、私を中国からの公務研修生だと知ると、市民の皆さんが気軽にあいさつしてくれて、温かく話しかけてくれます。中日両国民の友好の絆を心から実感しています。この『絆』のためにも、もっともつと頑張らなければと決意を新たにしました。

鄒旭（スウ キョク）

▽1973年湖北省生まれ 35歳

▽大連高新技術産業園区内資招商局（通称・大連ハitekパーク）勤務

▽妻と娘（9歳）の3人家族 現在、単身赴任中！